

経営比較分析表（令和2年度決算）

岡山県瀬戸内市 瀬戸内市立瀬戸内市民病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	その他
経営形態	診療科数	DPG対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	14	-	ド訓	救臨輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
37,049	7,803	第2種該当	-	10：1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
110	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	110
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
110	-	110

■ 当該病院値（当該値）
— 類似病院平均値（平均値）
【】 令和2年度全国平均

公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
- 年度	- 年度	- 年度

I 地域において担っている役割

昨年に引き続き、救急・小児・心療内科といった不採算部門に関わる医療を提供した。また、乳がん・子宮がんといった健診業務についても、引き続き行なった。健診結果により、精密検査が必要な方についても、その検査を実施した。そして、地域包括ケアシステムの担い手として、在宅との橋渡しの役割を継続している。先般の新型コロナウイルス感染症においては、陽性患者専用病床を確保し、対応にあたった。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

入院患者数については、新型コロナウイルス感染症陽性患者専用病床確保により感染拡大防止のため休止病床を設けたものの、患者数は昨年度とほぼ同じであった。入院患者1人1日当たり収益は、増加した。新型コロナウイルス関連の補助金があり、経常収支比率は大きく好転した。新型コロナウイルス感染症陽性患者の受入を継続しつつ、一般の入院患者を最大限入院できるように、近隣開業医及び高度急性期病院や介護施設等へ広報を続けていく。

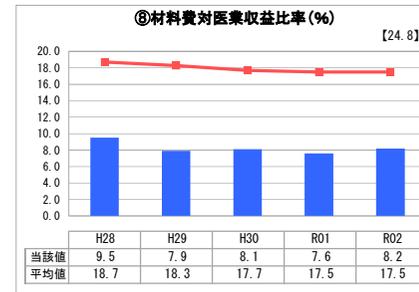
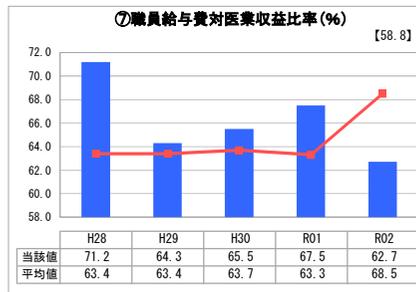
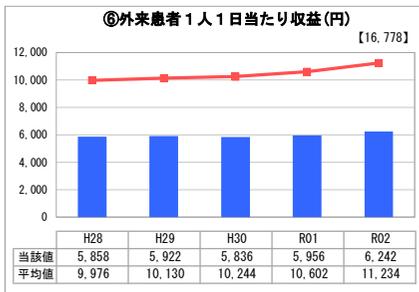
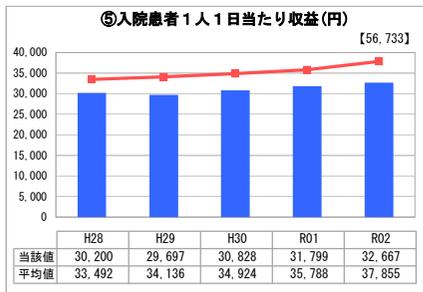
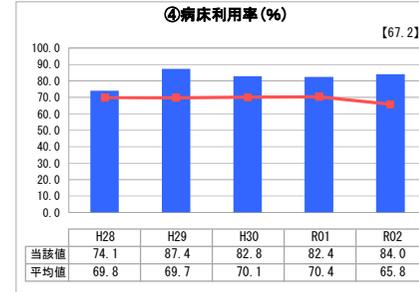
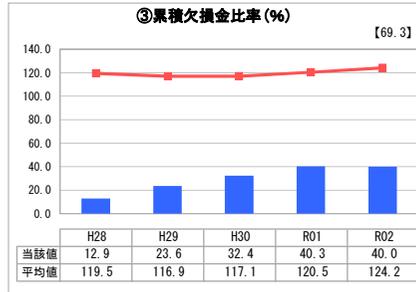
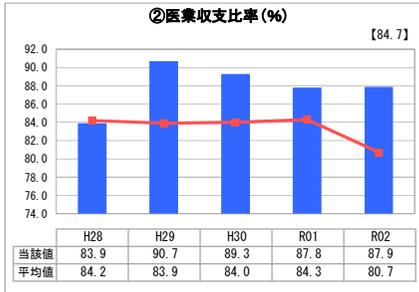
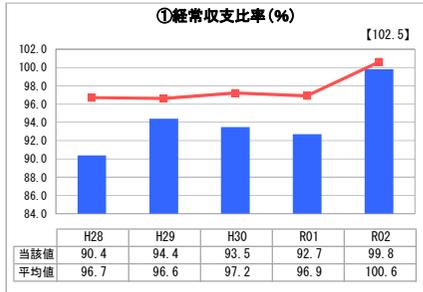
2. 老朽化の状況について

平成28年10月より新築病院で運営を行っており、建物の老朽化は該当しない。医療機器については、それぞれの耐用年数経過時に、今後の使用状況、対費用効果などでいつ更新するか判断していく。R2年度は、患者用のシャワーバス・耳鼻喉科ファーストユニット・眼科の検査スコープを更新した。

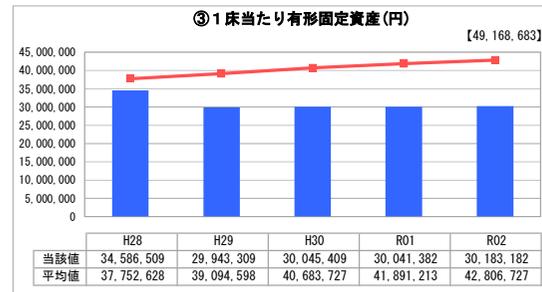
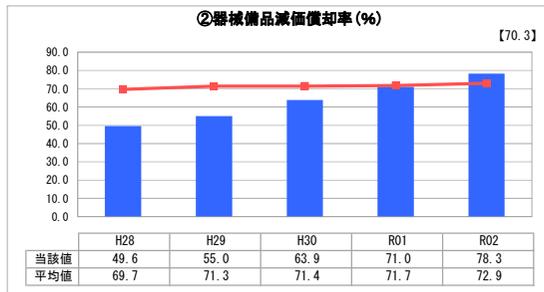
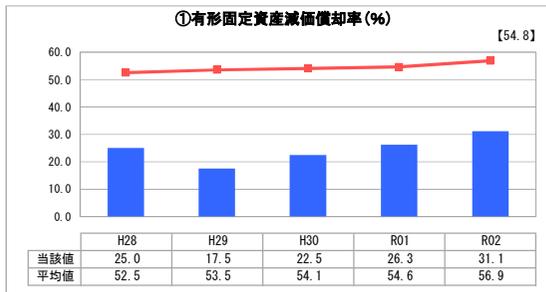
全体総括

新病院における年間での運営4年目。全国的に新型コロナウイルス感染症の影響で入院患者数が落ち込んだ中、当院では入院患者数を昨年度並みに維持することができた。新型コロナウイルス感染症に対応するために休床を余儀なくされた病床に対しては、それを補てんするための補助金があったことで、経常収支比率は大きく好転した。ただ、新病院建設により減価償却費が高額であること、適切な人員を配置することによる人件費の増加により、経常収支の黒字化には至っていない。新型コロナウイルス感染症により、昨年設置した経営企画室による各種プロジェクトチームの取り組みについては、令和3年度においても継続していく。

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。